

佐伯智義著「科学的な外国語学習法－日本人のための最も効率のよい学び方」講談社、1992年1月20日刊を読む

### ＜なぜ発音が大切なのか＞

1. (1)アルファベットで書かれた言葉では、「音と意味が結合している」からです。日本語とヨーロッパの言語の違いで、最も際立っているのが「表記法」です。
  - (2)①日本語では、意味を表す「表意文字」の漢字を使う。  
②ヨーロッパの言語では、フェニキア人が考え出した「発音記号」の一種である「アルファベット」を使う。
  - (3)①「漢字」の利点は、「字の形」で意味が分かるということ。  
②「発音」を知らなくても、文字の形さえ見て取れればよい。  
③ところが、「アルファベットで書かれた文字は、発音を知らなければ、文字の意味が分からぬ」。
2. (1)①この点は、「字の形で意味を取る」日本人には、理解しがたいことであろう。  
②欧米人は、書物を読むのに、「印刷された文字を音に換え」、「その音を聞いて意味を理解する」。  
③アルファベットは、「発音記号」だから、アルファベットで書かれた「綴りと発音の関係」には、「正書法」と呼ばれる、一定の規則がある。  
④(2)①フランス語やドイツ語にはこの「正書法」があるので、「発音」をいちいち辞書で確かめなくとも、「綴り」で発音がわかる。  
②ただし、英語は、多くの外国語を取り入れているので、「正書法」がない。  
③(3)①ヨーロッパの言語で「ことばの意味を伝えるのは、文字の形ではなく、音である」。  
②だから、「音を聞いただけで、言葉の意味を取る」。
3. (1)＜「日本人と欧米人の読み方の違い」＞
  - ①日本人：『活字』→『見る』→『理解する』
  - ②欧米人：『活字』→『見る』→『声に出す』→『聞く』→『理解する』  
  - (2)①欧米人の読み方では、「声に出す」と「聞く」が日本人の読み方より、余分にある。  
②横文字でも、速読では、声を出さずに読む。しかし、それには特別な練習が必要で、欧米人の誰でもができることではない。  
③そこで、ほとんどの欧米人は、本を読むとき、聞こえるか、聞こえないかくらいの小さな声を出すか(それは、唇が動いているのでわかる)、または、声帯をほんのわずか震わせている。
  - (3)①「外国語の勉強は、まず発音から始まる」ということを、肝に銘じていただきたい。  
②なぜなら、語学の進歩は、発音がうまいか？下手か？によって、かなり違うからである。

4. (1)単語は、必ず、声に出して、音で覚えよう。
- (2)黙ったまま、綴りを紙に書いて覚えようとするのは、効率の悪い勉強法だ。
- (3)①正確な発音を心がける。辞書を引く時も、発音しながら、ページをめくる。  
②言葉と物や動作を直結させて単語を覚える。  
③欧米では、外国の教材として、絵がよく用いられる。  
○残念ながら、日本では、「絵の多い教科書は幼稚である」との意見を持つ人が多いので、  
日本で作られる語学の為の教材には、絵が少ない。

#### ＜コメント＞

英語の「予習」「授業」「復習」では、「発音練習・暗唱」「書き取り練習・暗写・暗記」することが必要な理由は何か。その一端を佐伯先生の往年の名著から知ることができます。是非、御一読ください。

#### ＜紹介＞

本日から、NHKBS で始まった、「浮浪雲」の原作は、ビッグコミックオリジナルに長らく連載された、ジョージ秋山氏の作品です。秋山氏は、足利市立西中学校のご出身です。足利出身の秋山氏の作品が TV 番組化されうれしく思い、ご紹介させていただきました。舞台は、維新前夜の品川宿です。

よろしくお願ひいたします。

お体お大切に。

2026年1月4日(日)21時41分